

平成22年度事業計画書

(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

「国際交流・日本ジュニアヨットクラブ競技会2010」は、昨年に続いて東京都若洲ヨット訓練所に於いて開催する予定です。昨年は2016年オリンピックの東京招致活動に協力し、8ヶ国の海外チームを招聘して開催しました。競技会は会員及び参加クラブの皆さんのご協力と文部科学省、国土交通省、東京都、財団法人日本セーリング連盟、独立行政法人日本スポーツ振興センターはじめ株式会社アビームコンサルティングその他の多くの企業のご支援を頂いて成功裏に終了し、海外チームの評価も高くオリンピック東京招致に弾みがつきましたが、IOC総会の投票の結果としてはブラジルのサンパウロ市に敗れました。

若洲は2013年東京都で開催の第68回国民体育大会セーリング競技会場の予定地でもあり、将来のオリンピックも視野に入れて、本年度も再度若洲ヨット訓練所での開催を計画しました。

新しい試みとして、国内ジュニアヨットクラブ対抗レース優勝チームの選手を往復旅費連盟負担、現地ホームステイでの海外研修に派遣する計画です。

例年5月に東西日本地区大会として東西2地区で同時期に開催している日本少年少女オープンヨット大会は、今年からは一本化して、第30回日本少年少女オープンヨット大会として全国のクラブからの参加のもとで、江ノ島ヨットハーバーにおいて新しい企画で開催する予定です。

6月には新しい大会として、「ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010」を鳥取県米子市での開催を計画しています。中海・宍道湖がラムサール条約に登録されたことから鳥取県と島根県とが2006年に開始して以来毎年行って来ている中海・宍道湖一斉清掃の時期に合わせて、今年は、「中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会」として米子市で開催しますが、将来は全国展開も検討したいと思います。

指導者研修会の開催やユースセーリングの発行、ホームページの一層の充実、ジャパンボートショーへの出展等を通じて、全国の会員への迅速な情報提供やクラブ運営の相談や情報交換等が積極的に行われるように努力します。

厳しい一般経済環境の中で、限られた資金の効果的な運用と事務及び事業経費の節減を図っていく所存ですので、正会員の皆さんには年会費、そして正会員が代表する各登録クラブには新しくお願いする登録クラブの負担金についてのご理解を頂き、当連盟の発展のため引き続きご協力をお願い致します。

(部門別詳細)

1. 総務関係部門

(1) 新会員の獲得 (総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会)

(イ) 引続き、B & G財団との協力関係を維持し、財団傘下の海洋クラブの当連盟主催各競技会への参加を呼びかけて頂くと同時に、当連盟への加盟勧誘を継続的に図ることを努力します。

各競技会開催の機会を含め、クラブへ入るジュニアセーラーの増加や新規クラブの当連盟加盟促進に努力し、又、活動休止中或いは不活発なクラブへの支援に努力します。

(平成22年2月20日現在活動中63クラブ、休会13クラブ)

尚、クラブの代表者以外の正会員は19名ですので、正会員総数は82名です。(平成22年2月20日現在)

(ロ) デフレ景気の継続する経済状況で、賛助会員の新たな加入勧誘は極めて難しい状況が続いております。現在の賛助会員は「株式会社ライフサイエンス研究所」と「アサヒ飲料株式会社」の2社のみです。

引き続き新しい賛助会員の獲得に努力をします。正会員並びに各加盟登録クラブにおいてもそれぞれの地域で、種々アイデアを提案願い、企業や個人への呼びかけや各地での勧誘活動にもご協力をお願いします。

(2) 定款細則附則で登録クラブの負担金額を決定し、本年度から実施します。

別紙報告事項の通り、昨年中に何度も理事会で議論を重ねた上で、平成22年1月19日開催の1月度理事会において、従来の全国大会(国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会)開催時に選手の競技会参加料と同時に徴収していた選手登録料を廃止して、競技会参加選手の負担を軽減する事とし、一方で、定款及び定款細則で徴収する規定になっていましたが金額等詳細が決定していなかった為実際には徴収していない各登録クラブの負担金額を決定し本年度から実施する事としますのでご理解とご協力をお願いします。

2. 指導育成関係部門

(1) 指導員育成事業(指導育成委員会/競技委員会)

(イ) 指導者研修会を実施します。(年1回、2月通常総会時に実施する計画)

(ロ) 継続的な活動として、特に少年少女に奉仕の気持ちが育つように、当連盟主催各競技会開催時に「海浜、会場清掃運動」を指導していますが、各登録クラブにおいても、日常の活動の中で、「海浜の清掃運動」を柱に、引き続き社会貢献と環境保護の気持ちを指導して頂くようお願いします。

9年前から続いている鳥取県ジュニアヨット協会の「中海を泳げる海にする」清掃活動に加えて、4年前に「中海・宍道湖」がラムサール条約湿地に登録されたことから、鳥取県と島根県の皆さんが両県知事の旗振りのもとで、6月第2週に中海と宍道湖の一斉清掃活動を行うようになっていきますので、今年はこの時期に合わせて「ラムサール条約記念全国大会」を開催して、「海浜・湖岸清掃活動」を更に深めて、各地のメディアの協力や環境省のご支援も頂いて全国展開をして行きたいと思っております。

3. 普及と広報関係部門

(1) 普及活動事業(広報委員会/普及渉外委員会/競技委員会)

(イ) 国際交流競技会やオープンヨット大会その他各水域での普及大会の開催時等の機会を捉えて、各都道府県、関係市町村等地方自治体、教育委員会等の当局への広報、陳情活動を行い、当連盟の活動への理解をお願いし、競技会開催の後援、協賛、支援の要請を行います。

- (ロ) 当連盟の登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇種であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等のクラス別協会とも連携を強化して、各艇種の普及と競技会への多数の参加によるジュニアヨットの普及活動に努力します。
又、各クラブで最も多く使用しており、当連盟主催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会とは特に連携を緊密にして競技会の円滑な開催とジュニアヨットの普及を考えて行きたいと思っております。
- (ハ) B & G財団に対し、その傘下の海洋クラブの国際交流競技会、オープンヨット大会、その他各水域での普及大会への参加の呼び掛けをして頂くよう働きかけ、協力関係を促進します。
- (ニ) 連盟ホームページを充実させて、連盟本部からの情報提供や正会員、登録クラブからのイベント報告などをタイムリーに掲載出来るよう引き続き努力します。
- (ホ) 平成23年3月に横浜市のパシフィコ横浜で開催予定の「ジャパンインターナショナルボートショー2011 in 横浜」に引続き出展予定です。

(2) 出版事業等(広報委員会)

(イ) 機関誌「ユースセーリング」の発行

編集委員会を定期的開催し、内容の充実と定期発行(年2回、9月・3月)を継続目標とします。

(3) 競技会の開催(競技委員会)

(イ) 第30回日本少年少女オープンヨット大会

5月2日(日)～4日(火) 神奈川県江ノ島ヨットハーバーで開催予定

(ロ) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会2010

6月12日(土)～13日(日) 鳥取県米子市と中海で開催予定

(ハ) 国際交流・日本ジュニアヨットクラブ競技会2010

7月30日(金)～8月1日(日) 東京都若洲ヨット訓練所で開催予定

(ニ) 第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2010)

9月20日(月・祭日) 東京都若洲ヨット訓練所で開催予定

(4) 諸外国との親善交流事業(普及渉外委員会/競技委員会)

(イ) 7月30日(金)～8月1日(日) 東京都若洲ヨット訓練所で開催予定の国際交流・日本ジュニアヨットクラブ競技会2010に4ヶ国より外国選手を招待し、国際交流を予定します。(韓国、ニュージーランド、オーストラリア、シンガポールの予定)

(ロ) 9月20日(月・祭日) 東京都若洲ヨット訓練所で第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2010)を開催し、より積極的に在日大使館、外国学校に働きかけて国際交流を予定します。

- (ハ) 11月上旬、東京都若洲ヨット訓練所で開催予定の、東京都・ソウル市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースに支援を行います。
- (二) 毎年、各登録クラブからジュニアセーラーを数名推薦して頂き、連盟が往復旅費等を負担し、現地ではホームステイ、練習・レース参加、社会見学等の海外研修をするプロジェクトを具体化すべく、予算措置、受け入れ先等を含め検討の開始を企画しています。
- (5) ジュニアヨットクラブ安全対策事業(指導育成委員会／普及渉外委員会)
- (イ) 5月2日(日)第30回日本少年少女オープンヨット大会の開会式後に、参加選手、指導者・保護者に対し、大塚製薬(株)の協力を得て、安全講習会を実施します。
- (ロ) 7月30日(金)、国際交流・日本ジュニアヨットクラブ競技会2010の開会式後に参加選手、指導者・保護者に対し、特に大塚製薬(株)の協力を得て熱中症対策の安全講習会を実施します。
- (ハ) 平成23年2月開催予定の通常総会時に指導者研修会を実施しますが、その機会に、併せて安全講習会も実施します。

以上